平成29年度　学 校 自 己 評 価 表 （計画段階・実施段階）　私立 東海大学付属福岡高等学校

	学 校 運 営 計 画 （4月）
学 園 運 営 方 針	若き日に汝の思想を培え 若き日に汝の体躯を養え 若き日に汝の智能を磨け 若き日に汝の希望を星につなげ四つの言葉を基本理念として、人権尊重の精神に立脚し、人間・自然・歴史・世界・文明などに対する幅広い視野や、人生の基礎となる思想を養い、人生の意義について自ら学び考える力を育成する。21世紀を担う豊かな人間性を備えた創造性豊かな人材の育成をめざす。
学 校 運 営 方 針	私学の存在意義は、建学の精神に沿った教育と、時代の変遷に応える柔軟に対応する特色ある教育にある。本校の教育は学園の基本方針に沿って、本来あるべき高校生活を十二分に展開する中で学習と教科外活動（部活動等）の両立に立脚した「人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成」をめざす。また情報化・国際化の進展に対応し、それぞれの教科においてその目的に沿った教育を展開する。併せて、地域社会との教育的連携・貢献をはかり、地域の要請に応える。

29年度学校重点目標

昨年度の成果と課題	実 践 最 重 点 目 標	具 体 的 目 標	評価（3月）		成果と課題

29年度校務分掌・学年重点目標

昨年度の成果と課題	分掌・学年	分掌・学年重点努力目標	具体的方策	平均		
Symphony（校務システム）の運用は概ね軌道に乗り、各教科担当者、担任、学年とも入出力のミスも少なくなった。TT・STは主に自習監督の形で授業に入ることがほとんどで、現実的な現場での運用は今後もこうした対応になると思われる。行事に対応した臨時時間割は作成に労力を要したが概ね滞りなく運用できた。一方で、教科主体の授業のスキルアップとしての研究授業は実施できず、次年度は期間を設け、研究部と連携しながら教務部で主導し実施したいと考える。	教務部	主任 橋川 健輔 副主任 沖川 脩	［1］効果的に学力を伸ばすための授業態勢の構築 ①円滑な授業が行われるための時間割作成と運用 ②試験や行事において、効果的に対応できる特別時間割の作成 ③効果的な50分授業のあり方の検討と定着 ④学校行事の充実化と連携した授業時間の確保	［1］		
			［2］コースに対応した授業環境の推進 ①教科と連携した公開授業・研究授業の推進とあり方の検討（研究部との連携）	［2］		
			［3］情報管理室、学年と連携した円滑な成績処理の推進 ①校務システム（Ｓymphony）の円滑な運用とデータ提供 ②非常勤講師との連携	［3］		
			［4］家庭と連携した生徒の授業に臨む姿勢づくり。 ①保護者への確実な情報提供（成績・行事等） ②三者面談の効果的な実施と成績不振者への年間を通した指導の推進	［4］		
			［5］その他 ①新教育課程、生徒の実情に対応しつつ業務の効率化を図る規定の確立 ②国際化を踏まえた留学生受け入れ対応の確立 ③無駄をなくしつつ、教材・消耗品等の円滑な供給をはかる ④教室・学習室・特別教室の効果的な配置、整備と管理	［5］		
［1］基本的生活習慣の確立について、後半の殆どではほとんどの生徒が正しい身くせ・挨拶が出来ていた。言葉遣いに関しては5少し正しく頑張を持った言葉遣いを指導していく必要がある。また、身だしなみや時間厳守環境の整備美化等に関しても生徒がしっかりと自覚を持ち概ね良好であった。［2］指導体制の確立については生徒指導部と学年とが連絡を密に行いスムーズな連携が行えた。［3］部活動の推進では、多くの生徒が新活動へ加入し参加活動を行えた。しかし、それに伴い部室が不足し着替え等での不都合が起こている。来年度は部室の整理を行い、生徒が気持ちよく部活動に打ち込めるよう整備していきたい。［4］安全教育の推進では、登下校時のマナーなどで外部から苦情の電話も頂くことが数件起きている。来年度に向けて指導が必要である。［5］問題行動の防止と再発防止については今年度は特に大きな問題もなく生徒が自覚を持ち行動することが出来ていた。［6］生徒会活動の活発化では生徒会が積極的に活動を行い活発な活動を行うことができた。	生徒指導部	主任 甲斐 康浩 副主任 中村 謙三 牟 眉子 伊藤 良太	［1］基本的生活習慣の確立 ①挨拶の励行(教職員間の挨拶の徹底、明るく爽やかな挨拶と正しい言葉遣いの推進) ②正しい服装の徹底(学年・クラスでの推進・各授業での指導、各集会での検査実施、身だしなみ指導) ③時間の厳守(教務、学年と連携して遅刻防止の推進、遅刻指導の徹底) ④環境の整備美化の取組み(清掃方法の指導、用具の運営管理、特別大掃除の推進) ⑤登校指導→身だしなみチェック→授業連絡票のルーティンで徹底した指導を行う。	［1］		
			［2］指導体制の確立 ①各学年との連携を取っての指導体制を図る。 ②学校全体の取り組みである「7：20指導」を根気強く、継続した指導を徹底する。	［2］		
			［3］部活動の推進 ①同好会、部活動（運動部、文化部、総合部、チャレンジ学習部）の参加者増員への取組み、学園オリンピック参加への推進 ②活動場所の確保と安全点検 ③部室管理（清掃、備品管理の取組、施錠の徹底）	［3］		
			［4］安全教育の推進 ①校内施設安全確保と衛生点検の推進 ②自転車通学生の安全指導（登下校時の通学マナーの指導）	［4］		
			［5］問題行動の防止と再発防止 ①盗難防止と貴重品管理の徹底(持ち物への記名の徹底、自己管理の指導) ②不要物の校内持ち込みの防止 ③校内、校外巡回強化（通学指導、登下校指導の徹底） ④携帯電話の取り扱いについて、緩心の注意を払い、指導を行う。 ⑤後援会生活指導委員との連携	［5］		
			［6］生徒会活動の活発化 ①生徒会行事の立案・実施と生徒の生活環境の整備・改善 ②学校行事・生徒会行事・地域活動・ボランティア活動・学校広報活動への積極的な参加	［6］		
［1］達成値35%を大幅に下回った。要因は「年度末総括に記載。従来の指導を見直し、学校全体での指導を強化するための研修を1学期に実施する。現2年生の各企画への参加率が高く、予備調査での希望もこれまでにない高い希望があった。「東海大を知る」指導は、生徒だけでなく管理職を始めとする教員全体にも必要なことである。［2］昨年度から始めたガイダンスや補習・模試を継続する。複数の生徒が看護大・看護学部へ進学。今後の対子指導を自信持って実施できる結果だ。［3］設全来への内定は今年度も100%を達成する。また、内定時期も例年より早かった。今年度は応募前見学を徹底した。［4］今年度も多くの生徒が進路指導室を活用した。利用する生徒の満足度は高かった。進学において インターネットの活用がますます進んでなっているので、PCの整備が今後の課題である。［5］1・2年生の αについては放課後に補習を行った。 αのスタディーサプリの活用が今後の課題である。3年生の部活生から国公立に合格者がでた。	進路指導部	主　任 大丸　忠 主任補佐（他大学） 田中　明人 副主任 高橋　文美 副主任 早見　京子	［1］一貫教育の推進～付属推薦入学者35%。他大学を含む進路決定率100%をめざした進路指導の徹底。 その実現のための各学年との連携強化。 ①付属推薦を大前提とした各学年との一層の連携 (ア)1学年・・・進学説明会や学年の指導を通じ進路意識を芽生えさせる。東海大学をＰＲする。 (イ)2学年・・・学部説明会と『現代文明論Ⅱ』授業での東海大学のＰＲおよび説明会等による推薦志望への導き。 (ウ)3学年・・・説明会・面談等による付属推薦希望者の確保。候補者決定後の効果的な学習指導。 (エ)各学年と連携した生徒・保護者対象説明会の開催。 ②東海大学九州キャンパスとの連携。（生徒・保護者対象のオープンキャンパス等の企画と実施）	［1］		
			［2］効果的な進学指導 ①他大学・短大進学希望者に対する指導体制の確立。 ②学園基礎学力定着度試験や校外模試を活用した進学指導。 ③小論文指導・面接指導の取り組み。「現代文明論」や3学年団との連携による指導体制の確立。 ④進路意識を高めるガイダンスなどの実施。 ⑤専門学校進学希望者への進路指導。	［2］		
			［3］就職希望者にむけた指導強化 ①就職希望者への徹底した進路指導。 ②ガイダンスや面接指導を充実して、内定率100%をめざす。	［3］		
			［4］各種情報収集・整理および閲覧コーナーの充実 ①東海大学関係をはじめとする国公立・有名私大・地元有名大学の資料提供。 ②他大学・短大等への説明会参加。 ③各模試のデータ活用。	［4］		
			［5］スーパー特進難関受験コース・アスリートコースのそれぞれにおける目標設定とその充実。 ①3ヶ年におたる指導計画の確立と授業担当者による連絡会の開催。 ②チャレンジ学習から補習へ変更し、更なる学力向上の推進を図る。	［5］		
1年度においては、新年度に向け特に事業系の中心事業系生徒の課題を実施した。その流れにはったり、10月の進学祭では一人ひとりに一体感を醸成度の低さのもとに実施した。次年度は小学生などが本学生活臨されるため、これまでひとつひとつ取り組みをしていく。また、学年の中心となる生徒の育成を課題としており、次年度は「学年団」として指導していく必要がある。現代文明論に関しては昨年度から授業をおこなが、一方で今年度は、是、学校行事の開始から授業時間数の今年からという状況と期間集の準備の大変であったと思われるが、いろいろな授業を考えるが学年ごとのテーマではなく、学校としてひのテーマで取り組んでみたことも有効ではなかったのではあるが、昨年の反省点を踏まえ、次年度は、学年ごとに取り組む計画については現在のところ、教職員だけの自己評価シートへとどまっている。結果的には、少なくとも生徒・保護者のレベルにまでは展開していないのかもしれない。一方で学校内には、自己評価が全部ほかっていない父との問題点もあり、年次や教育を変化という、国際理解の学習では教育変に実施しているセレッシアの短期研修に参加する生徒は是にベスト内容の生徒が本校に来訪した際には、ホームステイを受け入れてもらった参加の各年にて一つできる。今年度はホームステイ先の確保が大変であった。	研究部	主任 國崎　淳 副主任 田代　修一	［1］高校現代文明論授業を通した全入格の教育(創造性教育・知的財産教育を含む)の充実 ①昨年度に引き続き、原点に立ち戻った『建学の精神』を中核とした現代文明論の内容を構築 ②学習力アップの設定と授業計画を設定 ③現代文明論研究授業の実施(1年＝11月、2年＝9月に実施) ④現代文明論の中での東海大学熊本キャンパスとの関での『ニューキャリアチャレンジ』の実施 一貫教育体制の構築による付属推薦による東海大学関係への進学意識を高める	［1］		
			［2］授業評価のオープン方法用とベストティーチャー制度の確立による授業改革の推進 ①4月の『研究授業週間』における各教科による研究授業の実施。それにともなう授業の検証、指導力の向上をはかる ②7月に実施する授業評価アンケートに基づいたベストティーチャーの選出と表彰	［2］		
			［3］授業・行事・生活習慣に関する研究活動の推進 ①人権教育・道徳教育の推進による人権意識の高揚および「心の培養」とそれに基づく行動を実践 ※研究部以外の他の部署からの研修会への参加をいっそう進める	［3］		
			［4］教職員・生徒の必要に応じた研修の計画と実施 ①教職員研修の充実(進路指導研修・生徒指導研修・人権研修など) ②生徒研修の充実(「仰高研修」「修学旅行」など) ③次年度に向けた宿泊研修・修学旅行等の内容を検討	［4］		
			［5］学校評価に向けた取り組み ①マーケットリーダーを導入、それを活用した『総合アンケート』の実施 ②地域行事などへの参加による本校の教育活動を積極的にＰＲ ③学校の日を最大限に活用した地域との一層の連携(本校の施設・設備の解放など)	［5］		
			［6］国際理解に向けた取り組み ①外国語教育にとどまらない国際交流事業の啓発と推進(留学生等の受け入れ) ②アジア派遣研修事業(マレーシア・ベスタリ校)への教職員・生徒の積極的参加を推進	［6］		
［1］生活指導については高校生活の初年度として学年共通の認識を持ち指導することが出来た。悩みや問題行動がある生徒には教員同士連携して対処した。［2］学習指導に関して、部活動所属者が多い現状で授業への積極的参加が最も重要であると通年で伝えた。提出物指導は教科・担任・学年・部活動指導者で連携し指導をした。国際交流では観光から3名、ケニアから1名の留学生に迎え、日常的に異文化理解に努めることができた。［3］進路指導については、日頃の学びが日本中にある東海大学へつながるという意識の基盤をつくった。	1学年	主任 福本　拡志 副主任 倉橋　輝昌	―基本的生活習慣の確立と基礎学力の向上（高校生活に向けて）― 高校生活の礎となる1学年で、文武両道の精神に基づき、すべての活動を通して、人間力の向上に努めるための指導を図る。高校生活を充実させるために「すべての行動が自身の未来につながる」ことを意識させる。自主的に行動しようとする姿勢を身につけさせる。 ［1］基本的生活習慣の確立（生活・コミュニケーション） ①校則の正しい理解とその遵守（すべての場面でルールを守る意味を考えさせる。） ②挨拶の励行（場所や状況にあった挨拶をさせる。） ③適切な言葉づかい（敬語）、身だしなみ（服装）の徹底。 ④時間への配慮（時間への自配り気配りと心配り） ⑤出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。家庭との連絡を密にする。） ⑥自己管理能力の育成（時間の厳守、提出物の期限厳守。） ⑦自他を尊重する精神の涵養（異なる考えを持つ他者への理解。国際的理解を深める。）	［1］		
			［2］学習習慣の確立と環境づくり（学習） ①学習に対する心構えの指導（日々の授業の大切さ） ②授業中の態度・提出物の状況の担任把握（授業連絡票の活用と教科担当者との情報交換） ③学習環境の整備（掲示物を含めた教室内の整理整頓。） ④学習到達度の把握（模擬試験などの積極的活用） ⑤コースに応じた学習指導（日々の課題・小テスト） ⑥英語教育の強化（応室までに英検準2級程度の力を取得させる。）	［2］		
			［3］進路指導（進路） ①進路指導部・教務部・研究部と協力して東海大学の学部・学科の魅力を紹介し、東海大学への関心を高める。（東海大学への付属推薦を意識させる。） ②将来の進路選択の可能性をより広く持たせるために、日々の学習の大切さを理解させる。 ③スタディーサポートや模擬試験などの外部模試を活用して進路意識の高揚を図る。 ④スーパー特進部による模試分析を活用した進路指導を行う。	［3］		
［1］生徒指導部と連携して1年間指導を行うことが出来た。基本的には担任の先生からの毎日の指導を中心に置き、指導を行った。教室整備など生徒が学業に集中できるよう環境整備をさらに進めた。［2］担手の立場に立ち、「増」に相応しい振る舞いを指導し、生徒も少しずつ成長の兆しが見えた。中間学年としてルールの意味を考えて行動するようになってきた。［3］担任と教科担当の連絡を継続的に行い、各自の進路目標に合わせた学力向上に努力した。［4］付属高等学校の生徒として東海大学の情報を自分の進路と照らし合わせてインプットしていくことが出来た。具体的には保護者とともに東海大学オープンキャンパス等を実施した。	2学年	主任 松原　崇志 副主任 堀亀　寛輝	―高校生活への順応と基本的生活習慣の確立― 高校生活1年を通じて、生徒たちに付加価値をつけて社会に貢献できる人材を育成する。 ◎　社会で通用する力（マナー・価値観）を身につけさせる。 ◎　高校生活全般において【学びの姿勢（態度）】（創意さ・謙虚さ）の大切さを理解させる。 ◎　「やるべきことはやる」という姿勢を身につけ行動できるように指導する。 ［1］基本的生活習慣の確立（社会人としてのマナー育成） ①校則の正しい理解とその遵守（朝晨にて身だしなみチェックを行う。学年集会や掲などで正しい理解を促し、全教員が共通認識のもと同じ目線で徹底した指導を行う。） ②挨拶の励行（学校にかかわる全ての方々に対してむのこもった挨拶をさせる） ③返事の励行（呼ぶ時、確認時にはっきりとした意思表示を行う。） ④出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。問題のある場合は直ちに家庭連絡の下に確認を行う。家庭との連絡を密にする。8：40のチャイムの鳴り始めをもって遅刻とする。） ⑤朝読書の励行 ⑥美化意識の高揚を図り、清掃活動を徹底させる。（授業開始時の整備、終了時の黒板消しを確認し、教室をきれいな状態を保つ。）	［1］		
			［2］態度教育 ①「学びの姿勢」を身につけさせる（高校は自己成長の場であり、生活面・学習面において謙虚さ・謙虚さの大切さを理解させる。） ②HR・授業時（机を並べる、ゴミを拾う、挨拶の徹底、服装を正す、聞く態度の指導） ③集会時（集会時間の厳守、聞く態度の指導、歌唱指導）	［2］		
			［3］学習意識の向上と環境づくり ①学習に対する心構え・方法の指導（HR）時のメモの励行 ②学習状況・理解度の担任把握（授業担任との情報交換、外部模試の積極的利用） ③学習環境の整備（課題や課題期限の掲示・教室美化への具体的指示）	［3］		
			［4］進路指導 ①進路指導部・教務部と協力し、2年次終了までに進路の方向性を決めさせる。（付属推薦での進学率を維やすための施策を継続的に行っていく。） ②外部模試を活用し、個人面談のもと、進学意識の高揚を図る。	［4］		
［1］2学年次まで問題、挨拶の励行、習慣指導、欠席後の指導を継続的に取り組んだ。社会に通用する人材育成を目指し、学年がよりよりて行くために「高校卒いわよりていた。無断遅刻も年度当初は多少見受けられたが、担任の先生方の細かな確認の督促において変休み以降はほとんど無くなった。［3］各立高は授業から全生徒に担任と教科担当が確定に連携を図った。しかし、一部クラス、一部授業において寝る者かい雰囲気の授業が見受けられた。この点を授業連絡票を用いて適切に対応できなかったある。環境整備に重点を置き、気持ちよく学習できるようにと指導した。［4］2年次の欠席指導については生徒指導部と学年とが連絡を密に行いスムーズな連携が行えた。［5］部活動の推進では、多くの生徒が新活動へ加入し参加活動を行えた。しかし、それに伴い部室が不足し着替え等での不都合が起こている。来年度は部室の整理を行い、生徒が気持ちよく部活動に打ち込めるよう整備していきたい。［6］生徒会活動の活発化では生徒会が積極的に活動を行い活発な活動を行うことができた。	3学年	主任 早見　京子 副主任 中村　謙三	―生徒の進路実現への積極的な指案・援助― 学力・人間性の向上に努め、生徒ひとりひとりの目標に応じた進路実現を図る。 学び(は主)意識ともの下ることを意識させ、自分の特性を生かしつつ、多方面の分野に好奇心を持たせる。 最終学年として、学内でのリーダーの役割を果たすことを意識させる。 ［1］基本的生活習慣の向上（特に期限・期日を守る） ①校則を遵守した生活（学内の手本・全教員が共通認識・理解させて指導・社会に出る直前である事を意識させる） ②挨拶・適切な言葉遣いの励行 ③出席の督励（正当な理由のない欠席・遅刻・早退をなくす。問題のある場合は直ちに家庭連絡で確認する） ④自己管理能力の育成（メモの徹底・適切な書類記入・期日の厳守） ⑤自他を尊重する精神の涵養（周囲への感謝の気持ち　異なる考えを持つ他者への理解）	［1］		
			［2］学習習慣の確立と環境づくり（学習） ①最終学年として学習指導の充実 ②志望理由書・小論文を中心とする「書き方指導」 ③授業中の態度・提出物の状況の担任把握 ④学習環境の整備（課題や課題期限の提示・教室美化の具体的指示） ⑤進路指導部と連携しての模擬試験・英検・漢検等への積極的な参加の奨励 ⑥コースに応じた学習指導（日々の課題・達成度）	［2］		
			［3］進路指導（進路） ①進路指導部と協力して付属推薦35%を目標に、生徒の実力・適性に合う東海大学への進学の推進 ②進路決定後、もしくは就活動引退後の「継続する学び」の姿勢への指導 ③看護または医療系進学・公務員希望者の模試参加奨励・成績会格への援助 ④進研模試やスタディサポート等を利用した、志望校合格に見合う学力の向上 ⑤特進コース　大学入試センター受験による更なる進路の拡大と学力の維持	［3］		